

WHERE IS

さとか。
あんまりシンセシンセした音よりも、むしろ全体的にサンプリング主体に戻ってきてるように感じます。それはハウスであってもジャングルであっても、変なジャズ・エレクトロミみたいなやつであってもなんでも。

一時期、デジタル音源が広まってみんな同じような音がでるようなことに疑問があっ
て、アナログに戻ったわけじゃないですか。そこから、サンプラー主体になってきてると
いうのは、そういう時期も一段落ついて、昔の
コラージュ的なエディット時代に入ってきて
いるのかな。

カットオフでピコピコやるのがリアリティ
がない、ということじゃないんですよ。それ
がなきゃいけない必然性があるんだったら、
絶対入れるべきなんだと思うんです。

むしろ、何もかも削ぎ落とされてきてる。
ピコピコ・ジャングルもあるんですけど、で
もそういうものはピコピコだけなんです。
「声+ピコピコ+リズム、終わり」。

なんでもありっていうのは、今の空気から
いってちょっと今は違うのか もしれない。
この先わかんないですけど、今はそう考えて
います。

『Again』をリリースした RyoAraiが考えるテクノ

フロッグマン・レコーズから初のCDアルバムがリリ
ースされた。アーティストはリョウ・アライ。「アンビエ
ント」的な印象の中に聞こえるポップなメロディ・ライ
ンから、今のテクノが聞こえている。彼が考えるいまの
テクノとは？

以前よりもテクノに関する認識が広まってきたと言
え、やっぱり社会的にはまだまだだと思えます。テクノ
にも実際にクラブで流すためのモノと、オーディオで聴
いてもらうリスニング系がありますが、僕がリスニング
系をターゲットにした曲作りを目指したのは、多くの人



テクノな風景
デトロイトというのはフォード、GMといった工場
有名ですけど、五大湖があるんですね。自然環境のきれ
いな街でもある。デトロイト・テクノは、そういった相
反するものが同居している環境で育った人たちが見た原
風景がそのまま音になっていくという気がします。
2年前にリロードの家に遊びに行った時に驚いたの
が、羊の牧場の中に製紙工場がドカーンと建っているん
ですよ。彼らは、それを小さい時から見ていた。ピョー
クというアイスランドの美しい自然
……というイメージがあるかもしれない
けれど、かなりな工業都市で、わけわ
かないビルがたくさん建っているらし
いんです。原風景というか、これは音
楽に関係なくはないなと思っちゃって、
僕自身も、歩いてちよっと行くと田
んぼがあったって田舎だったんだだけ

ど、でかいカスタンクとデカイ工場があった。
幼少のころそういう場所で育ったので、共感を覚
えるんですよ。
生まれ育っているところあんまり自覚ないじゃない
ですか。工場があって湖があって当たり前。でも、
なんで湖と工場があるのかということば、み
んなあまり考えていない。
一番テクノな場所といえば、ちよっと前まで川
崎かなと思ってたんですけど、今は御台場から有
明にかけてですね。いわゆる臨海副都心。ゆりか
もめ、テレコムセンター、フンテレ……。
ロンドンへ行くんで成田に向けてあそこをすっ
と車で走って、すごい霧がたちこめてて雲の上走
ってるような感じがする。その霧の中からわけの
わからない建物がニョキニョキと建っているわ
けじゃないですか。それで、ロンドンに着いたら
レンガだらけでホッとして。ロンドンから帰って
きて、東京のほうが異常だと思ってしまいました。

●そして「テクノ」とは何？

例えばナイキの新しいスニーカーってかなり
異常なデザインしてますけど、これはこれ
で計算されつくした必要最小限のデザインで
成り立っている。ここの部分が何センチ、こ



●RYO ARAI [AGAIN]
(フロッグマンレコーズ
FROG003CD)

に聴いてもらうためでもあります。テクノの未来を考
えると、やっぱりリスニング系の人たちをどれだけ呼び込
めるかが大事だと思うんです。クラブで聴いてオシマイ
だと、レコード・セールス的にはほとんど繁栄しません。
ですから「AGAIN」ではポップスを意識した音にな
っています。

使った機材は、T3をマスターにして、サンプラーがエ
ンソニックのASR。あとはローランドのサウンド・キャン
パスSC-88。それだけです(笑)。たくさん持ってい
ても把握できないので、これだけあればいいんです。ボ
イス、ブレイク・ビーツなどのリズム…ほとんどサンプ
ラーを使っています。TR-808などは実物も持っていま
すが、すべてサンプラーに取り込んだ音で使っていま
す。テクノ・ミュージックなのに、アナログはいっさい
使わず、すべてデジタルというのが、もしかしたら邪道
なのかもしれませんが…べつに狙ったわけではなくて、
自然とそうになりました。それらの音源をマックとパフ
ォーマーでコントロールしています。

僕自身テクノ以外の音楽もよく聴いています。テクノ
をマニアックに聴いているわけでもありません。音的に
難しいこと、マニアックなことは、やればできるん
ですが、それではせっかくアルバムを作るのに意味がないと
感じています。

TECHNO SOUND?

ここに空気が何mg入っている、
補強をするためにこれがついて
いる、ということが全部計算さ
れてできてるわけす。ナイキが
奇をてらただけでこういうデ
ザインをするんだったら、アン
ドレ・アガシとかマイケル・ジ
ョーダンとかどこもはかないじ
ゃないですか。あの人たち、仕
事に命かかっているわけですよ。

「よけいなものはいらぬ」と
いうのが大事かなって。機能的
っていう言葉の意味が違ってき
てくると思う。

音楽もそんな感じになりつつ
あって、「家で聴いて気持ちよ
くしたい」「クラブでかかるんだ
ったらこう」っていう感じにな
ってきているようです。

この前もサワサキさんと「脳
ミソと身体がよくリンクしてい
ってるな」という話になったん
ですけど、どういう形態の音楽
であれ、それが生きてこないも
の生き残っていかないかもし
れないという気はしてますね。

自然志向ということでもない
と思うんです。ナイキのデザ
インとかにしても、十分ケミカ
ルじゃないですか。大袈裟なこ
とようですが、人類の歴史が
道具の歴史であるんだとすれば、こういうふ
うになってくるのも当然なのかもしれませ
ん。

ミネラル・ウォーターとか携帯電話とか、
出始めのころは「え!?!」って思うじゃないです
か。例えば切り身の魚がパックに入れて売
てるというのは当たり前ですけど、港町の、
それも昔の人からみればすごくテクノでサイ
バーなことなはずなんです。

こういう見過ごしがちなふつうのことこ
そ、かなり特殊で、テクノでサイバーなこと
なのかもしれないと、最近よく思います。

15、6年前くらいから「テクノ」という言葉
の元となった「ハイテク」という言葉が使われ
始めますけど、「人類の歴史は道具の歴史であ
る」ということは誰も反論する人はいないと思
う。「テクノ」というのは、自覚的に道具と上
手につきあいながら、さらにその人の人間性
みたいなどころまで引き出すことができるも
のが「テクノ」かなと考えています。